



「道具」から「場具」の視点へ

私が在籍している武蔵野美術大学デザイン情報学科も、新設されて今年で3年目を迎える。1期生は3年になり、私の研究室でもゼミ開始ということになった。

基本的な話をすれば、大学での教育は、教える立場・教えられる立場がはっきりしている初等・中等教育とはちがう。基礎的な教養と専門的な知識を修得し、さらに個々人がそれぞれの専門分野において互いに触発し合う。それによって新たな高みを目指そうとするのが高等教育というものだろう。

ところがここで、わが学科のゼミ、少なくとも私の研究室特有の事情がことを面倒にする。通常のゼミであれば何らかの専門に特化した学生が集まり研究活動を行うことになるが、私のデザイン情報学のテーマは「モノ作り、コト興しのための方法論の研究・開発」にある。そこで「何かを企てる学生なら来るものは拒まず」となる。その結果、所属するゼミ生の関心も、新しいアニメーション・テクニクの研究からエコロジーがらみの社会運動の計画、果てはショウビジネスとしてのプロレスシナリオ技法研究といったものまで多岐におよぶことになる。

こうした状況で学生をあずかり、デザイン情報学というコンセプトでゼミを運営するには何を規範とすべきか。そこでふと思いついたのが「道場」という存在である。

道場とは、「多くの人が団体生活をしながら、精神修養・技術の熟練などに励む場」と言われる。道場を運営していくことは、それぞれの「道(タオ)を極めようとする個人を集団化することによって、単独ではなしえない何かを生み出すよう演出することなのではないか。

そう考えると、わがゼミの方向も見えてくる。もちろん、個々人のスキルの向上は望ましいが、それでは専門に特化した他学科にかなうはずがない。「モノ作り、コト興し」のためには、要素たる個々の専門的スキルに秀でることよりは、他との協働的関係を維持し、ビジネス的に言えば全体として「Win - Win」の関係を作り上げていくことが重要と考えるべきだ。

そんなことを考えていたら、おもしろいことに気がついた。実は道場というのは「タオ」と「場」の掛け算が行われるところであり、実は道場を「場」たらしめている何かこそが問題なのだ。

動機はさまざまだろうが、個々人がそれぞれの技能の極みを目指し、努力するのはごく自然である。さまざまな制度を通じて業を授かり、その技を効率よく使いこなせるよう技能を磨いていくことは、多くの人にとってわかりやすい目標である。



そうしたことをベースに道場がどのように機能しているかを考えてみると、1つにはそれぞれ自分の能力を高めようとするヒトがおり、彼らをサポートするモノ・仕組みとしての「道具」がある。もう一方で、ヒトの集まる「場」がある。であれば、それに高度なスキルを持ちながら多用な方向性を持つ人々が、「場」に集まることの可能性やその意味を広げるモノや仕組みを「場具」として捉えていくべきなのではないか。

人はモノを作り、さらにモノを作るための「道具」を作る動物であると言われる。そこに大きく関係するのがデザインという行為であることは言うまでもない。だが、この枠を超えて、「場」を作るための「場具」のあり方を考えてみると、これまでの道具世界とはまったく違った景色が見えてくるのではないか。

それは「場」を共有する皆が意識を集中するために用いられる黒板のようなモノから、果ては文化や制度という社会装置に至るまで、「場具」はこれまでさまざまなレベルに存在し、そして今後も機能し続けていこう。

ゼミの説明から、苦し紛れに「道場」を持ち出し、それが「タオ」と「場」の掛け算であるとしてみるなど、思いつきだと言われてもしょうがない。だが、従来「道具」的な世界しか見てこなかったデザインにとって、人々の間に共創的な関係を作り出すための「場」をサポートするモノ・仕組みを「場具」として改めて捉えることは大きな意味があるように思えてくる。

最大効率を目指して個々が階層的に位置付けられることがあたりまえの時代から、ネットワークが極めて大きな影響力を持ち、個々が自由に結びつくことで新たな価値を生むようになる時代、新たな環境下で「場」がどのような意味を付与していくことができるかを探ることには大きな可能性が感じられる。それは、少なくともデザイン情報学という立場から考えるべき大きなテーマの1つであるに違いない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp